

福祉サービス実務科 カリキュラム

期	間	6 か月
訓 練 目 標	介護施設や障がい者施設及び福祉用具取り扱い事業所などで即戦力として活躍できる人材育成を目指し、福祉サービスの実践的な知識及び技能を習得する。 介護従事者としての職業倫理と豊かな人間性を養い、社会福祉及び関連領域の基礎知識と介護の知識・技術を習得する。	
仕 上 が り 像	介護倫理、介護関連制度、介護に係る支援技術、医療的ケア技術及び福祉用具に関する知識・技能などを習得する。 介護施設や障がい者施設及び福祉用具取り扱い事業所などにおける接遇・ビジネスマナーや利用者との円滑なコミュニケーションを身に付ける。 関連職種との連携を図り、実務者研修課程修了者としての介護業務ができる。また、福祉用具専門相談員として福祉用具を利用する人に対して選び方や使い方の説明やアドバイスができる。	
取 得 目 標 資 格	介護福祉士実務者研修、福祉用具専門相談員研修	
	必要に応じて追加	

訓練項目		訓練内容	時間
学 科	人間の尊厳と自立	尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等介護基本理念の理解	※5
	社会の理解Ⅰ	介護保険制度について	※5
	社会の理解Ⅱ	社会保障制度、障害者総合支援制度の体系や財源・目的と専門職の役割について 利用者等への助言について	※30
	介護の基本Ⅰ	介護福祉士制度、自立に向けた介護の考え方、介護福祉士の倫理について	※10
	介護の基本Ⅱ	介護を必要とする人の生活の理解と支援について 介護実践における連携、介護福祉士の安全について	※20
	コミュニケーション技術	利用者・利用者の家族とのコミュニケーション、相談援助の技術を習得し良好な援助関係の構築及び状況や目的に応じた記録、報告方法	※20
	生活支援技術Ⅰ	介護職としてＩＣＦの視点にしたがったアセスメントの行い方 人体の構造や機能を理解し、ボディメカニクスを活用するための基礎 生活構造や社会資源の有効活用についての理解	※20
	介護過程Ⅰ	介護過程の基礎的知識、介護過程の展開、チームアプローチについて	※20
	介護過程Ⅱ	介護課程一連の流れの確認、介護過程の実践的展開について	※25
	発達と老化の理解Ⅰ	老化による心理や行動を理解するための視点について 加齢に伴うさまざまな機能の変化と日常生活への影響について	※10
	発達と老化の理解Ⅱ	発達の定義、発達段階、発達課題について 老年期の発達課題、心理的な課題と支援の留意点について	※20
	認知症の理解Ⅰ	認知症ケアの理念、認知症による生活障害、心理・行動の特徴について 認知症の人とのかかわり、支援の基本理解	※10
	認知症の理解Ⅱ	代表的な認知症の原因疾患、症状、障害等を医学的な理解 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用する方法	※20
	障害の理解Ⅰ	障害のとらえ方 障害者福祉の理念、障害による生活障害、心理・行動の特徴について	※10
	障害の理解Ⅱ	医学的側面からみた障害の理解、障害児・障害者への支援の実践について	※20
	こころとからだのしくみⅠ	介護に関するからだのしくみの基本	※20
	こころとからだのしくみⅡ	人間の基本的欲求、心理、生命の維持・恒常、人体の部位、構造と機能についての理解 介護におけるアセスメント、観察のポイント、介護・連携等について	※60
	医療的ケア	医療的ケアを行うための介護職員の倫理観や自立支援の働きかけ、医療の倫理、関係する制度や法律、これから学ぶ行為の安全な実施、救急蘇生、感染予防、バイタルチェックなどの総論	※50
	福祉用具と福祉用具専門相談員の役割	福祉用具の役割・福祉用具相談員の役割と職業倫理	※2
	介護保険制度等に関する基礎知識	介護保険制度等の考え方・介護サービスにおける視点	※4
	高齢者と介護・医療に関する基礎知識	からだこころの理解・リハビリテーション・高齢者の日常生活の理解・介護技術・住環境と住宅改修	※16
	個別福祉用具に関する知識・技術	福祉用具の特徴・福祉用具の活用	※16
	福祉用具に係るサービスの仕組みと支援に関する知識	福祉用具供給の仕組み・福祉用具貸与計画等の意義と活用	※7
	福祉用具の利用の支援に関する総合演習	福祉用具による支援の手順と福祉用具貸与計画等の作成	※5
	振り返り	振り返り・修了評価試験（筆記1時間程度）	※2
	安全衛生	介護職員としての健康管理、感染症予防、腰痛予防及びリスクマネジメントについて	※6
	就職支援	オリエンテーション、履歴書・職務経歴書の作成、ジョブ・カードの書き方、面接対策、求人情報の提供、職業相談、介護現場での接遇・マナーの習得、キャリアコンサルティング等各種支援	※42
	実習事前講習	介護現場実習に向けての心構え、記録の書き方、実習目標について	※6
	実習事後講習	介護現場実習後の振り返り、事例検討	※6
実 技	生活支援技術Ⅱ	寝具の整え方・ベッドメイキング、衣服の着脱、排泄にまつわる介護、食事の介護等、多様な現場に対応できる技術の習得	※30
	介護過程Ⅲ（演習・実技）	アセスメント、個別援助計画を作成することができ、計画に沿った適切な支援の実践についての理解	※45
	医療的ケア	喀痰吸引・経管栄養シミュレータを使用し、基本手技を習得するとともに発生するリスクについての理解（一人1項目5回の演習が義務であり、時間数の制約ではない）	※30
	パソコンによる各種報告書類等の作成	パソコンを活用した報告書等の作成実習	※18
	介護、福祉現場実習	施設・通所・訪問介護実習	※48
総訓練時間			718

※上記訓練時間を参考に就職に必要な資格取得及び効果的な訓練時間の設定を行ってください。

ポイント	国が定める基準時間を下回らないよう注意すること。介護分野等への就職や職場定着を促進するため複数の企業実習及び見学を取り入れた内容とすること。また、実際の業務を想定してビジネスソフトの使い分けなどを取り入れ就職に結びつける内容とすること。
------	--